

岡山桃太郎空港脱炭素化推進計画（概要）

1. 基本的な事項

○空港の特徴

- 標高200～300mの丘陵台地にある空港であり、3,000mの滑走路を有し、年間着陸回数5,977回、旅客数約150万人（令和元（2019）年度）となっている。

○空港の脱炭素化に向けた方針

- 空港関係事業者が一体となって、照明や航空灯火のLED化、車両のEV化、太陽光発電等の再生可能エネルギー導入などを進めることにより、空港の脱炭素化を推進する。

2. 温室効果ガスの排出量

区分	温室ガス排出量 [t/年]		
	2013年	現状(2019年)	
空港施設	4,759	3,345	
空港車両	281	269	
空港施設・車両 計	5,039	3,614	
(参考)	航空機	10,548	11,018
	空港アクセス	2,676	2,795

3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	2013年度比 46%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

4. 主な取組

2030年：LED化およびEV車両の導入を進めるとともに、太陽光発電設備の導入に取り組む。

2050年：引き続き、EV車両の導入を進めるとともに、太陽光発電設備の更なる活用に取り組む。



その他の取組

地域連携・レジリエンス：災害時の蓄電池等の活用
意識醸成・啓発活動：ポスター掲示等